

アクティブ・ラーニングによる幼保小接続プロジェクト

常葉大学 保育学部 山本睦ゼミ

指導教員：教授 山本睦

参加学生：3年 竹内平治郎 池田夏葵 岡田ほのか
城塚陽南子 土屋咲恵 松本あずさ 村松美虹
2年 大石桜子 清水琴葉 土屋明日加

1 要約

ふじのくにコンソーシアム事業の助成により、山本睦ゼミでは、昨年度の保幼小連携をテーマとした研究から、先を見通した保育が必要であると考え、今年度では各学校種での一貫して行う教育方法の1つ「アクティブ・ラーニング」に焦点を当て研究を進めた。

学校種を限定せず参加者を募った研修会では、アクティブ・ラーニングの1つの技法である「ホット・シーティング」を体験することを通してその学習効果を実感するとともに、一般市民を含む参加者同士でアクティブ・ラーニングや連携全般に関する情報共有を行った。

2 研究の目的

こども家庭庁より、「はじめの100か月の育ちビジョン」が提示され、幼児期から小学1年生まで切れ目のない支援を行うことが求められた。私たちは、保幼小連携の枠を超え、保幼から高校まで一貫した支援が必要であると考えた。保育学部生として、先を見通した保育を行うために、研修会を通して各学校種の先生に対し、学生の学んだ内容を共有すると共に、各学校種の交流の場となるよう努め、一貫した保育・教育を強化するきっかけとなることを目的とした。

3 研究の内容

「OECD education2030 プロジェクトが描く教育の未来^{※1}」、「子ども家庭庁の宣言」、「問題発見力を鍛える^{※2}」等を読み込み、一貫した保育・教育を行うことの重要性を把握した上で、現場での実践を促すため研修会を開催した。また、研修会でプレゼンテーションを実施するにあたって、現場の実態を把握するためにインタビュー調査と質問紙調査を行った。インタビュー調査と質問紙調査では裾野市の保幼小中高の管理職・一般職の方に実施した。

※1 白井俊著 OECD education2030 プロジェクトが描く教育の未来 エージェンシー資質能力とカリキュラム ミネルヴァ書房

※2 細谷功著 問題発見力を鍛える 講談社現代新書

4 研究の成果

(1) 当初の計画、(2) 実際の内容 (Aは予定通り、Bは一部修正、Cは中止)

当初の計画		実際の内容
5月	裾野市役所訪問（担当者顔合わせ、打ち合わせ） インタビュー調査、分析 文献調査（アクティブ・ラーニング、こども家庭庁）	A Bインタビュー分析延期 パンフレット作成 A
6月	質問紙配布 第一回研修会開催予告チラシ作成・配布 質問紙回収、分析開始	Bインタビュー分析 A B質問紙作成、回収延期
7月	裾野市役所訪問（担当者間打ち合わせ）	B 裾野市訪問中止 質問紙作成、調査、分析、 研修会資料作成、 パワーポイント作成開始
9月	第一回地域連携研修会開催（裾野市生涯学習センター） 第二回研修会開催予告チラシ作成・配布	A A
10月	第二回地域連携研修会準備	B 研修会の反省会、 課題抽出、改善、 第2回地域連携研修会準備
11月	ふじのくにA&S参加 第二回地域連携研修会開催（常葉大学草薙キャンパス）	CふじのくにA&S 中止 A
12月	報告書作成（フィードバック用）	A
1月	パワーポイント作成、報告書作成（ふじのくにコンソーシアム提出用）	A
2月	ふじのくに地域・大学フォーラム参加（静岡理科大学静岡駅前キャンパス）	A

(3) 実績・成果と課題

事業の中で、保育者や教員、地域の方に対し、インタビューとアンケートを行い、各学校種との連携状況、アクティブ・ラーニングの実施状況等を調査した。その結果、教育機関の連携において、幼児教育と学校教育の連携への意識にズレが生じていることが明らかになった。その課題を解決するため、研修会を二度開催し、子どもの教育の方向性を共有する場を設けた。詳細は以下の通りである。

■ 第一回地域連携研修会

開催場所：裾野市生涯学習センター

参加者：保育者 4名、小学校教諭 2名、行政の方々 4名、高校教諭 1名
地域の方 3名



〈研修会当日のスケジュール〉

14:00～14:35	統計結果発表 プレゼンテーション
14:45～16:00	グループワーク 1 「ホット・シーティングを体験しよう！」
16:10～17:00	グループワーク 2 「アクティブ・ラーニングを共有しよう！」
17:00～17:10	研修会総括

〈プレゼンテーションの内容〉

アクティブ・ラーニング導入の背景や種類、効果、定着条件等の内容をスライドにまとめて発表した。アクティブ・ラーニングを学校教育の中に留めるのではなく、全ての人に共有し、子どもの成長に切れ目のない環境を構築することが大切であることを示した。

〈グループワークの概要〉

第1部の「ホット・シーティングを体験しよう！」では、「人が成長したと感じる瞬間」をテーマに、ホット・シーティングを行った。実際に体験してホット・シーティングという技法の理解を深めること、他者の評価基準に気付いていただくことを目的として実施した。第2部の「アクティブ・ラーニングを共有しよう！」では、4、5人のグループに分かれ、それぞれ実際に現場で行っているアクティブ・ラーニングについての共有を行った。

■ 第二回地域連携研修会（常葉大学草薙キャンパス）

開催場所：常葉大学草薙キャンパス

参加者：保育者 8名、小学校教諭 1名、行政の方々 2名、地域の方 1名



〈研修会当日のスケジュール〉

15:00～15:35	統計結果発表 プレゼンテーション
15:45～17:00	グループワーク 1 「ホット・シーティングを体験しよう！」
17:10～18:00	グループワーク 2 「何でも情報交換会」
18:00～18:10	研修会総括

〈プレゼンテーションの内容〉

第1回研修会の内容に加え、幼児教育と学校教育の連携への意識の差を減らすこと、子どもの教育に関わる全ての大人で教育の方向性を共有することへの重要性を強く示した。

〈グループワークの概要〉

第1部の「ホット・シーティングを体験しよう！」では、「人がやる気になったと感じた瞬間」をテーマに、ホット・シーティングを行った。目的は第1回と同様。第2部の「何でも情報交換会」では、各自実際に行っている連携方法や連携に関する困り感など、アクティブ・ラーニングに限らず連携全般のことについて情報共有を行った。

(4) 今後の改善点や対策

研修会を開催するにあたり、保育者・教員・行政の方々・地域の方から参加者を募ったが、学生と、保育者、教員の調整できる日時が異なったため、多くの方にご参加いただくことができなかった。今後このような研修会を開催する際には、より多くの方にご参加いただけるよう、日程調整に力を入れていく。

5 課題提出者・地域への提言

ご多忙の中、今回の調査にご協力いただきました裾野市の担当者様をはじめとする皆様には深く感謝申し上げます。事業を進めるにあたり、インタビュー調査の園・学校とのやり取り、研修会の場所取りなどを円滑に進めてくださりました。より発展した連携にするために、研修会に関する広報をより行っていくことで、興味のある方に伝わり、地域の課題を解決していく手立てになると感じました。

6 課題提出者・地域からの評価

課題提出者の裾野市から、「調査に同行した際、現場の現状や意見を直接聞くことができた」との評価をいただいた。この点については、今回の事業を通じて保育者と行政の交流の場のきっかけとなったのではないかと感じた。これが地域全体の更なる教育の質向上に繋がる一方で、「学生との打ち合わせの機会がもっとあれば良かった」といったご意見もいただいた。今回、学生と行政職員との間で、事業を進めていく中での困りごとや、課題共有が不足していたと感じる。より密な打ち合わせと課題共有を進める必要があった。